

功 績 概 要

(1) 水防活動関係

団体〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和7年8月の大雨災害)

名 称	玉名市消防団
所 在 地	熊本県玉名市
代 表 者	団長 池田 篤治
功 績 の 概 要	玉名市消防団は、令和7年8月10日から熊本県を襲った令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨において、3日間にわたり、延べ544名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、河川越水等に伴う道路冠水の通行止め、避難誘導を行い、人的被害を未然に防いだ。 また、冠水に伴い、自宅周辺が冠水し孤立した住宅から、地域住民約30名をボートで救出した。 この他、冠水による孤立住宅の解消のため、消防用のポンプ11台を活用し、排水作業を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	熊本市消防団
所 在 地	熊本県熊本市
代 表 者	団長 中口 優
功 績 の 概 要	熊本市消防団は、令和7年8月10日からの大雨に際し、8月10日から11日にかけて延べ96ヶ分団471名が出動した。各地越水により床上浸水等の被害を受ける危険な状況の中、巡回警戒広報、住民の避難誘導等を行い、増水により脱出困難となった住民約45名をボートにより救助し、人的被害の軽減のため活動した。

名 称	霧島市消防団
所 在 地	鹿児島県霧島市
代 表 者	団長 下津曲 勝
功 績 の 概 要	令和7年8月6日からの大雨災害において、8月8日午前6時頃、隼人方面隊日当山第二分団姫城部の消防団員4名が、地域を巡回警備中、水没している軽車両の車内に要救助者を発見。胸部付近まで水があがってきている中を歩いて車両まで接近、後部の窓ガラスをハンマーで割り、取り残されていた男性1名を車外に救出した。

(2) 土砂災害防止活動関係

個人 [防災体制の整備]

氏 名	ひらまつ しんや 平松 晋也
職 業	国立大学法人信州大学 名誉教授
功 績 の 概 要	氏は信州大学農学部において、長年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績を上げてこられた。 表層崩壊から深層崩壊まで多様な斜面崩壊を調査・研究する中で、特に山腹崩壊のメカニズムを解明するため、斜面に生育する樹木の根系と雨水の挙動の関係を長年にわたり現象論的に研究され、山腹崩壊の発生予測に繋がる成果を挙げられた。また、大規模土砂災害発生後の警戒避難基準の設定及びその解除時期に関する研究、森林の有する崩壊発生抑制力の適正評価に関する研究を始め、深層崩壊や大規模な表層崩壊の発生メカニズムの解明及びその予測手法の開発に向けた研究に取り組んでこられ、これら多岐にわたる多くの研究成果を砂防学会誌をはじめとした学術誌に投稿されている。これらの研究成果は日本のみならず海外においても高く評価されるとともに、他の関連する研究や行政等による防災実務において広く反映、活用されることで、実学としての砂防学の発展に寄与している。 また、御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会、土砂災害警戒情報検討委員会、大規模土砂災害対策検討会など、国土交通省や長野県を中心に数多くの委員会等に参加、座長や委員長を務められ、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面からの確かな助言、指導を行うなど、砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献を頂いた。 教育面に関しては、信州大学等において質の高い教育を実践し、これにより旧建設省、国土交通省、林野庁、都道府県、民間建設系コンサルタント社等に多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、メディアにも積極的に出演し土砂災害にかかる講義、説明を行うなど、講演や書籍の執筆、広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。 また、公益社団法人砂防学会及び日本地すべり学会において、長年にわたり理事、役員として学会活動に携わられており、平成30年からは砂防学会専務理事、令和2年には日本地すべり学会長に就任され、砂防、地すべり分野において学会の発展と科学技術の振興に尽力されてきた。日本地すべり学会長在任中は、技術者の確保や斜面防災教育の必要性、魅力ある学会の活動の推進等を学術団体として広く社会に発信することに努められ、学会を通じて研究者や技術者の育成、技術力や研究力の向上に貢献された。 以上のように、一貫して学界に籍を置き、砂防に関する学術研究に貢献するとともに、地域活動への尽力も含めた様々な土砂災害対策や防災・減災に関する活動を通じた国土や地域の強靱化への貢献、砂防関係人材の育成及び砂防研究の広報等における功績は誠に大きく、砂防事業の推進と発展に対する功績は極めて顕著である。

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(令和6年7月の大雨災害)

名 称	米原市消防団伊吹方面隊 第2分団伊吹班
所 在 地	滋賀県米原市
代 表 者	団長 野洲 寛明
功 績 の 概 要	伊吹班は、令和6年7月1、15、25日の大雨による伊吹山からの3度にもわたる土砂災害において、その都度発災時より団員の緊急出動を行い地域の住民の安否や災害状況の確認を行った。 また災害時以外でも特に当初発災時から避難解除される9月30日までは、大雨や台風の度に昼夜を問わず、水路や道路において土砂や流水状況などの現地確認に回った。 さらに、土砂災害発生後においては住宅内の土砂撤去や、住宅内への流水防止のための土のう積などの対処にも従事した。そのような地域への水防活動を行い、水害・土砂災害被害の軽減・防止に活躍し、幸い人的被害もなかった。

(3) 緊急災害対策活動関係

団体〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和7年8月の大雨災害)

名 称	国土交通省緊急災害対策派遣隊
所 在 地	東京都千代田区
代 表 者	隊長 阿部 成二
功 績 の 概 要	8月6日(水)から12日(火)にかけて、日本付近に停滞した前線等の影響で大気の状態が非常に不安定となり、北日本から西日本の広い範囲の各地で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となり、特に、鹿児島県、熊本県では大雨特別警報を発表した。6日から12日にかけての雨量は、熊本県や福岡県では600ミリを超えたほか、その他の九州北部地方、九州南部、北陸地方、及び甲信地方でも500ミリを超え、平年8月降雨量の3倍以上となった地点もあったなど、記録的な大雨となった。 これらの大雨により、多くの河川で浸水被害や土砂災害、断水等が発生するとともに、人的被害や多くの住家被害をもたらした。 国土交通省では、災害対策連絡調整会議を実施するとともに、被災地へのべ1,035人・日の緊急災害対策派遣隊を派遣した(令和7年8月5日～令和7年9月10日)。 各機関の緊急災害対策派遣隊は、現地関係者との連絡調整、自治体所管施設の被害状況調査、断水地域での給水支援のほか、浸水解消に向けた排水作業、協定業者と連携した道路啓開、斜面崩壊箇所の応急復旧に向けた技術的支援等を行い、全力で地方公共団体への支援を実施した。 その活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献するとともに、被災自治体等から大きな信頼を得ることとなり、その功績は顕著である。
名 称	国立研究開発法人土木研究所 緊急災害対策派遣隊
所 在 地	茨城県つくば市
代 表 者	上席研究員 西田 秀明
功 績 の 概 要	令和7年8月6日からの大雨に対応するために、1日間延べ1名の専門家を派遣し、国道10号網掛橋の橋台洗掘について復旧検討に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。 ・派遣隊員数：1名 ・派遣期間：令和7年8月11日 ・主な活動内容：橋台洗掘に係る高度な技術指導